

北播磨総合医療センター改革プラン 平成28年度実施状況の点検・評価報告書

平成30年2月

北播磨総合医療センター改革プラン評価委員会(以下「評価委員会」という。)は、北播磨総合医療センター改革プラン(以下「改革プラン」という。)の平成28年度実施状況の点検・評価を実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1 評価方法

改革プランの各項目の実施状況について、北播磨総合医療センターから提出された改革プランの実施状況及び自己評価を検証し、評価委員会の総意を取りまとめる形で、点検・評価とした。

2 評価委員会

委員長	明石 純	関西学院大学大学院経営戦略科教授	学識経験者
副委員長	黒田 昭	三木市医師会会長	医療関係者
副委員長	西山敬吾	小野市加東市医師会会長	医療関係者
委員	小田美紀子	兵庫県看護協会専務理事 (元大阪市職員)	医療関係者
委員	阿南 徹	済生会兵庫県病院事務部参事 (前同病院事務長：三木市在住)	市民代表
委員	土井嘉彦	公認会計士 (元企業団監査委員：小野市在住)	市民代表

3 点検・評価

(1)総評

改革プラン実施状況の点検・評価については、数値的に一般的な病院とも比較しやすい部分を評価項目とし、それ以外の部分を参考項目とした。参考項目については、今後、どのように評価項目に取り入れていくか検討する。

今回、評価基準を(2)のとおり定め、評価項目の中項目ごとに評価した。中項目の自己評価は全てBとなっていたが、委員会で検討した結果、(3)及び(4)のとおりとなった。

総じて概ね目標を達成しており、改革プランの進捗としては順調に推移し

ているものと評価する。

引き続き、計画的なプラン実行により経営の効率化を図るとともに地域の基幹病院として医療供給体制の充実に努められたい。

(2) 評価基準

評価	評価の基準
S	特によくできた（全国的に模範とされるような成果）
A	よくできた（プランの数値を大幅に上回っている）
B	概ねできた（プランの数値をほぼ達成している）
C	あまりできていない・できていない（プランの数値に未達）

(3) 評価項目

	S	A	B	C
1 医療機能の再編による医療供給体制の充実	0	0	2	0
2 高度先進医療・チーム医療の推進及び地域の医療機関との連携	0	1	1	0
3 地域包括ケアシステムの構築に係る地域の医療機能の向上と周知活動及び情報発信	0	0	2	0
4 医療従事者の育成と確保	0	0	1	0
5 収支改善に係るもの	0	0	1	0
6 収入確保に係るもの	0	2	1	1
7 経費削減に係るもの	0	0	3	0
8 経営の安定性に係るもの	0	0	6	0

(4) 各項目の評価

< 1 医療機能の再編による医療供給体制の充実 >

病床機能の整備について、プランに掲げてあるSCU施設基準取得を計画どおり平成28年度中に達成しているためBとする。

医療機能・医療品質の確保について、救急患者数、搬送件数等はかなり多いが、分娩数やクリニカルパス適用率が低いため、全体的な評価としては、Bとする。クリニカルパスの件数を増やし、適用率の向上を図られたい。

< 2 高度先進医療・チーム医療の推進及び地域の医療機関との連携 >

先端医療の推進について、ダヴィンチ、アブレーション治療の具体的な目標件数の設定はないが、平成27年度に開始し、前年度から倍増しているためBとする。

チーム医療の推進による地域の医療機関との連携強化について、紹介率は地域医療支援病院の基準となる65%を安定して越しており、逆紹介率は目

標・実績とも高いためAとする。

< 3 地域包括ケアシステムの構築に係る地域の医療機能の向上と周知活動及び情報発信 >

公開講座等の開催について、開催回数ではなく、中身や地域のニーズとのマッチングが重要となるが、今回はBとする。今後、医師以外の職種も活用されたい。

情報発信について、両市広報での掲載回数が少ないとの指摘はあったが、HPは非常に充実しているためBとする。今後、HPの目標数値を出すこと及び、患者用広報の配布方法の検討を図られたい。

< 4 医療従事者の育成と確保 >

実習生の受入について、目標設定自体が難しい項目ではあるが、診療部門は目標達成、看護部門はやや未達でBとする。

< 5 収支改善に係るもの >

収入確保、経費削減等による収支改善について、経常収支比率、医業収支比率は目標を達成しておりBとする。

< 6 収入確保に係るもの >

患者受入体制の確立による患者数の確保について、目標設定は高いがそれを達成しているためAとする。

診療単価の向上について、平均在院日数が目標に未達ではあるが、地域の状況を鑑みるとやむを得ない部分があり、入院単価・外来単価も目標に未達ではあるが、地域の実情からすると目標が非常に高いためAとする。

地域連携の推進について、カンファレンスと施設共同利用件数等が重要かと考えられるが、カンファレンス開催回数は伸びているものの、施設共同利用件数が昨年度と横這いのためBとする。

請求業務の改善について、患者未収金が増加しているためCとする。

< 7 経費削減に係るもの >

職員給与費について、ほぼ目標どおりのためBとする。

材料費について、ほぼ目標どおりのためBとする。同規模病院と比較して材料費率が高いので、高度医療を提供するために材料費が増えるのはやむを得ないが、引き続き削減に取り組まれない。

減価償却費について、いろいろ工夫して平準化しているためBとする。

< 8 経営の安定性に係るもの >

組織運営について、人事評価制度を目標どおり平成28年度に導入しているためBとする。今後、評価結果を賞与等へ反映すべく取り組まれない。

医師の確保について、計画通りの人数を充足しているためBとする。

看護師の確保について、看護師数が足りず運用休床しているベッドはあるが、地域の実情を鑑みてBとする。

医療技術職の確保について、計画通りの人数を充足しているためBとする。

事務職員の専門化・プロパー化について、平成32年度目標に向け、計画的に採用が進められておりBとする。

計画的な建設改良投資及び企業債借入について、今後の建設改良投資が計画的に進められているのでBとする。